

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成16年11月4日(2004.11.4)

【公表番号】特表2000-504042(P2000-504042A)

【公表日】平成12年4月4日(2000.4.4)

【出願番号】特願平9-526525

【国際特許分類第7版】

C 0 8 F 4/642

C 0 8 F 10/00

【F I】

C 0 8 F 4/642

C 0 8 F 10/00

【手続補正書】

【提出日】平成15年12月17日(2003.12.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成15年12月17日



特許庁長官 殿

1. 事件の表示

特願平9-526525

2. 補正をする者

名称 ビーエーエスエフ アクチェンゲゼルシャフト

3. 代理人 〒104-0031

住 所 東京都中央区京橋2丁目8番18号

昭和ビル9階 (電話 3538-7746 代表)

氏 名 ~~(10035)~~ 弁理士 江藤 聡明

4. 補正により増加する請求項の数 0

5. 補正対象書類名

請求の範囲

6. 補正対象項目名

特許請求の範囲

7. 補正の内容

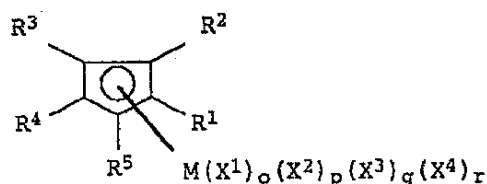
1) 特許請求の範囲を別紙のとおり訂正する。



特許請求の範囲

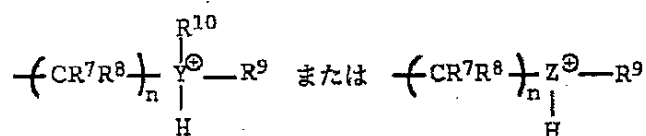
(1) 活性組成分として、

(A) 下記一般式 I



で表わされ、かつ式中の

Mがチタン、ジルコニウム、ハフニウム、バナジウム、ニオブまたはタンタルを意味し、
 R^1 から R^4 が水素、 C_1 – C_{10} アルキル、置換基として C_1 – C_{10} アルキルを持ってもよい5から7員のシクロアルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたはアリールアルキル(このうち隣接する2個の基が合体して炭素原子数4から15の環式基を形成してもよい)、 $\text{Si}(\text{R}^6)_3$ 、



を意味し、

上記 R^6 が C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたは C_3 – C_{10} シクロアルキル、

上記 R^7 、 R^8 が水素、 C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたは C_3 – C_{10} シクロアルキル、

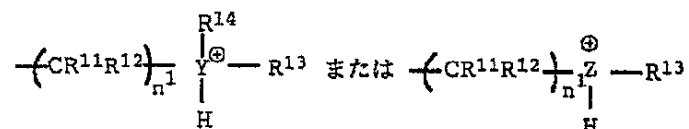
上記 R^9 、 R^{10} が C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたは C_3 – C_{10} シクロアルキル、

上記 Y が窒素、燐、砒素、アンチモンまたはビスマス、

上記 Z が酸素、硫黄、セレンまたはテルル、

上記 n が 0 から 10 の整数であり、

R^5 が

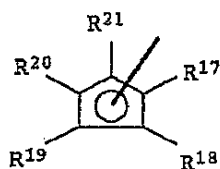


を意味し、

上記 R^{11} 、 R^{12} が水素、 C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたは C_3 – C_{10} シクロアルキル、

上記 R^{13} 、 R^{14} が C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたは C_3 – C_{10} シクロアルキル、 n が0から10の整数であり、

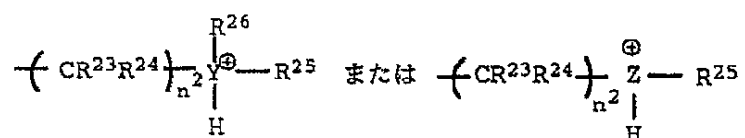
X^1 から X^4 が弗素、塩素、臭素、沃素、水素、 C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリール、アルキル基部分に1から10個、アリール基部分に6から20個の炭素原子を有するアルキルアリール、 $-\text{OR}^{15}$ 、 $-\text{NR}^{15}\text{R}^{16}$ または



を意味し、

上記 R^{15} 、 R^{16} が C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリール、アルキル基部分に1から10個、アリール基部分に6から20個の炭素原子を有するアルキルアリール、アリールアルキル、フルオロアルキルまたはフルオロアリールであり、

上記 R^{17} から R^{21} が水素、 C_1 – C_{10} アルキル、置換基として C_1 – C_{10} アルキルを持っていてもよい5から7員のシクロアルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたはアリールアルキル(このうち隣接する2個の基が合体して炭素原子数4から15の環式基を更に形成してもよい)、 $\text{Si}(\text{R}^{22})_3$ 、



であり、

上記 R^{22} が C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたは C_3 – C_{10} シクロアルキル、

上記 R^{23} 、 R^{24} が水素、 C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたは C_3 – C_{10} シクロアルキル、

上記 R^{25} 、 R^{26} が C_1 – C_{10} アルキル、 C_6 – C_{15} アリールまたは C_3 – C_{10} シクロアルキル、

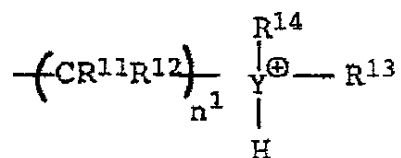
上記 n^2 が0から10の整数であり、

o 、 p 、 q 、 r が0から4の整数を意味するが、 $o+p+q+r+1$ で示される合計がMの原子価に相当する場合のメタロセン錯体と、

(B)メタロセニウムイオンを形成する化合物とを含有する触媒組成物の存在下において、 C_2 – C_{10} アルケンの重合体を製造する方法。

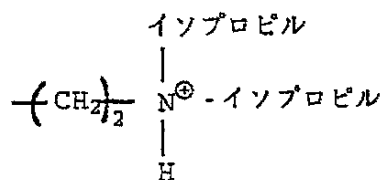
(2) 一般式(I)中のMがチタン、ジルコニウムまたはハフニウムであることを特徴とする、請求項(1)の方法。

(3) 一般式(I)中の R^5 が



であることを特徴とする、請求項(1)または(2)の方法。

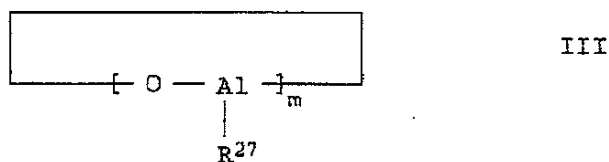
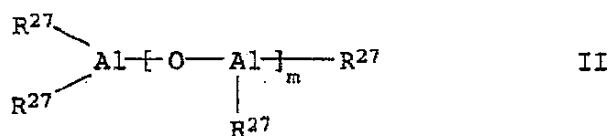
(4) 一般式(I)中の R^5 が



であることを特徴とする、請求項(1)から(3)のいずれかの方法。

(5) 一般式(I)中の R^1 から R^4 が水素であることを特徴とする、請求項(1)から(4)のいずれかの方法。

(6) メタロセニウムイオンを形成する化合物(B)が、以下の一般式(II)または(III)



で表わされ、かつ式中の

R^{27} が C_1 — C_4 アルキルを、

m が5から30の整数を意味する場合の開鎖または環式アルミノキサン化合物であることを特徴とする請求項(1)から(5)のいずれかの方法。

(7)使用される C_2 — C_{10} アルケンがエチレンであることを特徴とする請求項(1)から(6)のいずれかの方法。

(8)請求項(1)から(7)のいずれかの方法で得られた重合体の、ファイバー、フィルムまたは

成形体製造のための使用法。

(9)請求項(1)から(7)のいずれかの方法で得られた重合体を主材料として製造されたファイバー、フィルムまたは成形体。